

## 男性化粧に対する周りからのイメージと受容程度の研究

情 ■■■ 浜口 亮太  
指導教員 宋 財法

### 1.はじめに

本研究は、男性に化粧を施した際、その化粧の程度が他者からの印象評価および社会的受容にどのような影響を及ぼすのかを実証的に検討することを目的とする。近年、SNS の普及やジエンダー規範の緩和を背景に、男性の美容意識は高まりつつあり、スキンケアやメイクを日常的に行う男性も増加している。一方で、男性化粧に対しては「清潔感がある」「魅力的である」といった肯定的評価と、「不自然である」「男らしくない」といった否定的評価が併存しており、その社会的受容は一様ではない。

先行研究では、男性に薄い自然なメイクを施すことでも魅力評価が向上することや、外見操作の強度が高まるほど信頼性や道徳性が低下する可能性が指摘されてきた。しかし、男性を対象に化粧の程度を複数段階で操作し、魅力や信頼、男らしさ、清潔感、自信といった多面的な印象評価への影響を体系的に検討した研究は十分とは言えない。

### 2.研究方法

そこで本研究では、すっぴんを統制群とし、ベースメイク、アイメイク、口紅を加えた計四段階の化粧条件を設定した。2025 年に実施したオンライン調査を行い、日本在住の 18 歳以上の男女を対象に、同一人物の異なる化粧段階の顔写真を 2 枚提示し、魅力、信頼、男らしさ、清潔感、自信の五つの評価軸について回答を得た。分析方法としては、各評価項目を応答変数、化粧段階を説明変数とした回帰分析を行い、さらに化粧段階と評価者の性別との交互作用を含むモデルを推定した。

### 3.結果

分析の結果、表 1 よりほとんどの評価軸において、化粧を施した条件はすっぴんよりも高く評価される傾向が確認された。特に魅力、信頼、清潔感、自信においては、化粧の程度が強まるほど評価が一貫して上昇し、口紅を施した最も濃い化粧段階で最大の効果が得られた。一方、男らしさについては、ベースメイク段階で一時的に評価が低下するものの、中程度以上の化粧では再び評価が上昇するという他の評価軸とは異なるパターンが確認された。

また、評価者の性別との交互作用を検討した結果（表 2）、すっぴん条件では男性評価者の評価が相対的に高い一方で、化粧の程度が強まるにつれて女性評価者の評価が大きく上昇し、濃い化粧条件では女性の評価が男性を上回る傾向が明らかとなった。

表 1. 男性化粧の程度と 5 つの評価軸の関係

	魅力度	信頼度	男らしさ	清潔感	自信
切片	0.130 (<0.001)	0.215 (<0.001)	0.435 (<0.001)	0.077 (<0.001)	0.251 (<0.001)
処置群 1	0.357 (<0.001)	0.243 (<0.001)	-0.050 (0.003)	0.451 (<0.001)	0.191 (<0.001)
処置群 2	0.429 (<0.001)	0.347 (<0.001)	0.133 (<0.001)	0.476 (<0.001)	0.365 (<0.001)

処置群 3	0.752 (<0.001)	0.603 (<0.001)	0.213 (<0.001)	0.826 (<0.001)	0.504 (<0.001)
Num. Obs.	5984	5984	5984	5984	5984
R2	0.303	0.197	0.045	0.366	0.149
R2 Adj.	0.302	0.197	0.044	0.366	0.148

注：カッコ内は p 値、処置変数のベースカテゴリは統制群（すっぴん）

表 2. 男性化粧の程度と調整変数性別を加えた 5 つの評価軸の関係

	魅力度	信頼度	男らしさ	清潔感	自信
切片	0.100 (<0.001)	0.188 (<0.001)	0.418 (<0.001)	0.062 (<0.001)	0.213 (<0.001)
処置群 1	0.389 (<0.001)	0.271 (<0.001)	-0.035 (0.141)	0.456 (<0.001)	0.233 (<0.001)
処置群 2	0.463 (<0.001)	0.388 (<0.001)	0.180 (<0.001)	0.501 (<0.001)	0.433 (<0.001)
処置群 3	0.808 (<0.001)	0.645 (<0.001)	0.228 (<0.001)	0.857 (<0.001)	0.550 (<0.001)
男性ダミー	0.061 (0.003)	0.054 (0.014)	0.034 (0.156)	0.030 (0.124)	0.075 (<0.001)
処置群 1 × 男性ダミー	-0.066 (0.023)	-0.056 (0.071)	-0.030 (0.375)	-0.008 (0.772)	-0.085 (0.008)
処置群 3 × 男性ダミー	-0.068 (0.034)	-0.083 (0.016)	-0.097 (0.009)	-0.051 (0.091)	-0.140 (<0.001)
処置群 2 × 男性ダミー	-0.112 (<0.001)	-0.086 (0.007)	-0.029 (0.403)	-0.062 (0.027)	-0.093 (0.005)
Num. Obs.	5984	5984	5984	5984	5984
R2	0.304	0.198	0.046	0.367	0.151
R2 Adj.	0.304	0.198	0.045	0.366	0.150

#### 4. 結論

以上の結果から、本研究は、男性化粧が必ずしも否定的に受け取られるものではなく、化粧の程度によっては強い肯定的印象を形成しうることを示している。特に、従来の研究で支持されてきた「薄いメイクが最も好ましい」という知見とは異なり、ナチュラルメイクの中で比較的濃い化粧が高く評価された点は、男性の美意識やジェンダー観が変化しつつある可能性を示唆するものである。本研究は、男性化粧の社会的受容を多面的に捉えた実証的知見を提供するとともに、現代社会における男性性と美意識の再編を理解するための基礎的資料となることが期待される。